

9月30日から10月2日までの2夜3日、台湾での日台「地域安全保障フォーラム2008」に日本戦略研究フォーラムの一員として参加した。

以下はその参加所見である。

1 フォーラムの概要(ブックレット写真下中央)

台湾国防部(省に相当)主催の日台二国間の台湾海峡を巡る問題に関する共通の関心事項に関する専門家会議。

10月1日：午前中 海上作戦等に関する日台パネラー6名の説明と質疑
兵役制度等に関する説明と討議

午後 大陸の外交政策等に関する日台パネラー5名の説明
昼食時間を活用しての兩岸関係に関する説明と質疑

夜：国防部副大臣 主催の招宴

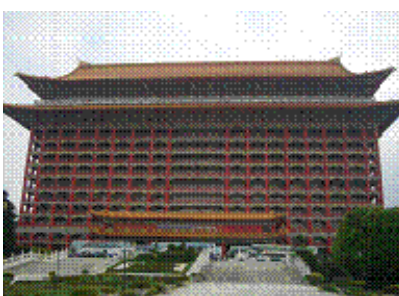
10月2日：午前 中華民国外交部長(大臣)表敬及び懇談等

午後 NSC 等表敬訪問

小生の担当は「大陸の外交政策と宇宙開発」であった。尚、小生は残念ながら3日仙台社用出張の関係で、2日午前中まで参加し帰国せざるを得なかった。当初案は、29日出発し2日帰国であったが、台風の関係で順延となった為中途半端な参加となった次第である。

日本側参加者：鈴木正孝氏(元参議院議員、防衛政務次官)、川村純彦氏(岡崎研究所副理事長、元海将補)、茅原郁夫氏(拓大教授、中国問題の第一人者)、高井晋氏(元防研所員、青山学院大講師その他)、上野英詞氏(元防研所員、海洋政策研究財団)、金田秀昭氏(元海将、舞鶴総監、岡崎研究所)と小生であり、小生が最年少参加者である。(写真下左)

小生を除く参加者は夫々の分野の泰斗であり、台湾訪問多数経験あり旅慣れた人のみ。



2 参加所見

(1) 最高の歓待に感激

宿泊は5つ星、蒋介石夫人宋美麗女史縁の圓山大飯店(グランドホテル写真右上)、国防部の評価部の部長である中將の出迎え及びエスコート、外交部長や国家安全企画

部(NSC) の表敬・懇談、国防部副部長(部長は外国出張中)による招宴等最高レベルの歓待。

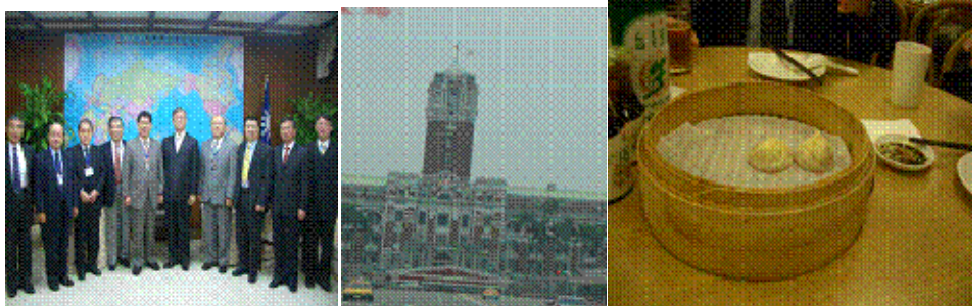
(2) 馬英九政権に対する日本の懸念払拭に必死！

馬總統就任直後の尖閣問題への発言等、大陸への融和とも政策推進等、日本社会に馬政権に対する強い懸念があるとの認識で、日本側参加者の誤解を解き、発信して欲しいとの思惑があった。勿論我々は、今回のフォーラム間の本音トークにより国民党政権が考えている政策を理解することができ、日台の連携は十分に可能であるとの認識を持つことが出来た。

(3) 兩岸関係に対する台湾の基本的考え

中台の経済や人的交流の促進は緊張緩和に裨益し、信頼関係の醸成にも有効であり、今後とも強化する必要がある。中台は経済的には切っても切れない緊密な関係にある。しかしながら、政治的或いは安全保障に関する限り、国益を考え慎重に対応する必要がある。対岸へのミサイルや航空機の配置や反国家分裂法の成立、海洋戦略など脅威は十分に認識、一方的に大陸に傾斜することはないし、すべきではない。大陸の動向を注視し、最悪の事態をも想定して相応の準備を怠らない。米国に対する信頼感あるも懸念なしとはしない？

国交樹立国は、大陸の対抗策等もあり、減少傾向なるも実質的な関係は多数の国と締結している。金銭外交する積りはない。SARS や環境など国際社会の中で果たすべき役割は一杯あり、その能力も充分にある。そのことを理解して欲しい。緊張緩和到来との幻想を抱いてはいない。政治や安全以外の分野で兩岸関係において為すべき事項多々あり。台湾の戦略的重要性については共通認識あり。



(4) 日米台の連携についての期待

自由と民主の価値を共有する日米との可能なレベルでの多層的な連携を促進することが極めて重要である。日台の関係は特別なパートナーシップ(special partnership)と位置付けている。自衛隊との連携、特に海上作戦に関する交流・意見交換等を図りたいとの強い期待がある。

(5) 米国からの武器購入や日本からの武器輸出に関する期待

詳述は避ける

(6) 日本に対する期待

中共に対して台湾サイドからの意見や注文をつけて欲しい。(台湾を追い詰めることは得策ではない等。)日本とのあらゆるレベルとの交流を促進したい。国際機関加盟の協力依頼、平常時からの良好な国際関係構築の必要性認識。(外交部長表敬記念写真下段左)

(7) 兵役制度の改革は真剣

台湾側の要望で日本の募集制度に関する説明実施、後戻りはないようだ。

(8) その他のフォーラム全般に関する個人的所見

- ① 経済等の交流が国民の意識に如何なる変化を及ぼすか不安あり。
- ② 大陸の協調外交を本物と見るかそれとも作戦とみるかにより対応やや異なろう。
- ③ 現状維持という美辞や綺麗ごとに惑わされていないか。

(9) その他

- ① 台北市内の名所旧跡や夜市など見学時間全くなし、再来を期待する。
- ② 料理は招宴とホテルの朝食時の担任麺、帰国時の昼食に台湾で最も有名な小籠包店にて食す(写真下段左)。料理天国を堪能し得ず(台湾、南方、北京・広東・四川・客家・湖南料理等)
- ③ バイクと車の混雑時の奇妙な共存
- ④ 市内繁華街のホテルならば市内散歩が出来たろうに、やや残念也。
- ⑤ 電話代は高いが、公衆電話は便利で安い、重宝の由。
- ⑥ 台湾式宴会 乾杯の応酬に驚愕、原爆や水爆もある由。
- ⑦ 日本人観光客多数、ホテルは日本語で用を達し得る。
- ⑧ TV : TV 字幕で意味何となく理解、CMは日本的だ。
- ⑨ 全般的に親日的
- ⑩ 次回機会あれば、台湾中・南部等にも足を伸ばしたい

3 今回の日台フォーラムと同様の二国間フォーラムを色々な国で開催し、将来的には多数国参加のフォーラムに繋げたいとの意向あり。日本での開催についても今後検討したい由。工夫を要するかも知れぬ。